

2019 年度 卒業論文作成における注意事項

2019 年 10 月 3 日
4 回生担任 和田有朗

以下の指示に従って、卒業論文を作成すること。

(0) 審査申請

指導教員のチェックを受けてから提出すること。審査申請書に指導教員印が必要である。

(1) 構成

以下の順序・項目による構成とすること。

- 1) 表紙：論文題目・著者名を別紙様式に従って作成したもの。
- 2) 要旨：別紙様式に従って作成したもの。
- 3) 目次（図表目次を含む）：別紙様式に従って作成したもの。
- 4) 本文（注・参考文献リストを含む。章の表紙は付けない。）
- 5) 謝辞
- 6) 付録

(2) 要旨

論文の要旨を添付すること。その書式は、和文要旨のみ、これまでの中間発表会等と同様の書式にすること。下記 URL の学科 HP に掲載している「卒業論文要旨書式」をダウンロードし、指示をよく読み、同ファイルに上書きする形で書式通りの要旨を作成、提出すること。加えて、下記 URL の学科 HP に掲載している「要旨作成における注意事項」、「参考文献の引用様式」をダウンロードして、その指示をよく読み作成すること。

<http://depp-usp.com/zaigaku/download>

- ・本文を日本語で記述する場合：日本語で概要を 4 ページ使用して記述すること。
- ・本文を英語で記述する場合：英語で概要を 4 ページ使用して記述し、さらに保存版では、これに 1 ページ以内の和文題名ならびに和文抄録を追加すること。
- ・要旨には、以下の 6 つの項目を必ず入れること。なお、必要に応じてその他の項目を加えても構わない。
 1. 背景・論点
 2. 研究の目的・意義
 3. 研究方法
 4. 結果及び考察
 5. 結論
 6. 参考文献

(3) 本文ページ数

論文を構成するに必要な図表や参考文献リスト等を含めて本文 20 ページ以上とする。上限は 100 ページを目安とする。ただし、要旨、目次（図表目次を含む）、謝辞、付録等はこのページ数に数えない（「(1) 構成」を参照）。 unnecessary な繰り返しは避けて簡潔に仕上げること。

(4) 書式

1) ページ設定およびフォント

Windows 版 MS Word のデフォルトに準拠する。他のワープロソフトを用いる場合は以下のレイアウトに従うこと。

字体・サイズ	MS 明朝 10.5 ポイント (英数字は半角, Times New Roman, 10.5 pt.)
行数および字数	40 字×36 行, 字送り 10.6 pt, 行送り 18.25 pt
余白	上 35 mm, 下 30 mm, 右 30 mm, 左 30 mm
本文ページ番号	通し番号とし, フッター中央にアラビア数字 (1, 2, …) で表示すること。

要旨・目次ページ番号 ローマ数字の小文字 (i, ii, iii…) を用いる。位置は本文に同じ。図表目次は目次に続けて番号を振る。

なお和文要旨のみ, これまでの中間発表会等と同様の書式にすること。

2) 図表

図表は適切な大きさと本文中の適切な箇所に挿入する。図には図番号と表題, 表には表番号と表題をつけること。番号は「章番号-図表番号」とすること (例: 図 1-1, 表 1-3)。

図番号とその表題は図の下に入れること。

例

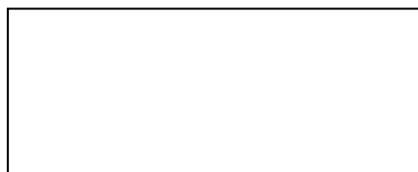


図 2-1 引用文献の出現頻度

表番号とその表題は表の上に入れること。

例

表 6-8 文献の引用頻度



図表の表題は, 本文と切り離してもそれだけで意味が通じるものにする。

また, 本文中の図表は原則としてページをまたがらないこと。止むを得ずページをまたがる場合は, 当該図表を分割して, それぞれのページの図表に図表番号と表題を付けること。

3) 数式

数式は中央揃えとして, 式番号は右揃えとすること。

例

$$ax^2+bx+c=0 \quad (1)$$

4) 注記

本文中では記述しにくいことが、どうしても言及しておくべきことを述べるために、注を用いる。本文中の注記の箇所には、「注¹⁾」と右上付きで記載する。注記の文章は章末にまとめ、各章本文の末尾に1行あけてゴシック体で【注】と記載し、さらに1行空けてから記載する。

注番号は、例のとおり、すべての注番号の前に「注」を挿入する。さらに、2行目以降は、全角1文字分のぶら下がりインデントにすること。注番号の数字とカッコは半角とし、全角1文字分のスペースをとったうえで、注の文章を記述する。以下の例を参照のこと。

注記の例

……環境基本法^{注1)}では…… (本文終わり)。

【注】

注1) 1993年の法律第91号によって制定された環境基本法は、環境保全についての基本理念を定め、国・地方公共団体・事業者及び国民の責務を明らかにしている。(以下略)

5) 参考文献の引用

本文中の参考または引用箇所の右上に、右上付きのカッコ付き数字で、参考文献番号を記載すること。

例： 文献の引用を記した様式^{1),2),3)}についてはいろいろなものが…

参考文献リストは各章末尾(注の後)に記述すること。形式は、学科HPに掲載している「参考文献の引用様式」をダウンロードして、その指示をよく読み作成すること。

6) 付録

参考とする図表や資料などは、付録として巻末に添付する。加えて、付録には、閲覧時点で存在したことを証明するために、閲覧したWebページの該当ページあるいはサイトのトップページの画面コピー(プリントスクリーンしたもの)を掲載すること(Web上にしか存在しないものは必ず)。ただし、同様の引用Webが多数ある場合(多くの調査対象自治体の引用Webなど)には、指導教員の了承のもと、掲載を省略して構わない。

(5) 謝辞

指導教員ならびに研究遂行上、お世話になった方々への謝辞を記すこと(保存版のみ必要)。

(6) 印刷

仕上がりは左綴じとし、見開き右面が奇数ページとなるように連番で印刷すること。卒論本編については、表紙・要旨・目次・本文・謝辞・付録は、それぞれ独立して両面印刷したものを2部提出すること。

また、上記とは別に片面白黒印刷の要旨を1部提出すること(発表会用配布資料作成原稿)。

(7) 個人情報論文・要旨・発表用ファイルに記載するにあたっての注意

論文・要旨・最終発表用のスライドファイルに、個人情報(個人名・団体名、およびそれらを明記したヒアリング内容など)を記載する場合は、調査対象者から、事前に表現などの了解を得ること。もしも了解が得られない、あるいはその時間がない場合は匿名にすること。

(8) 提出日時

2020年1月24日(金) 13:30-15:30 B2-209(環境政策・計画学科控室; B2-209室)

(表紙様式)

県立大学卒業論文における
文献の引用に関する研究
－ 引用の形態を中心として －

Study on the literature citations in the graduation thesis
at The University of Shiga Prefecture:
Analysis of the form of citations

淡海 富士夫

OUMI, Fujio

環境政策・計画学科において学士（環境科学）の学位授与の資格の
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した卒業研究論文

2019 年度

承認

指導教員

タイトルは 12 pt の MS ゴシック+Arial、
副題は 11 pt の MS ゴシック+Arial

卒業論文要旨の記載書式に関する研究

数字・ピリオド共に全角

研究室・学籍番号・氏名は 10 pt の
MS 明朝+Times New Roman

鈴木研究室 0312099 山田太朗

1. 背景・論点

環境問題の解決において

節項のタイトルは 10 pt の MS ゴシック+Arial

である^{1), 2), 3)}.

要旨本文は 10 pt の MS 明朝+Times New Roman

が本研究の論点である。

2. 研究の目的・意義

そこで本研究では、を目的 1 とし、を目的 2 とする。

本研究の意義は、である。

3. 研究方法

研究の目的を次のような方法で達成する。

本文中の図表番号は 10 pt の MS ゴシック+Arial

その結果を表 1 に示す。表 1 から、ということがわかり、目的 1 を達成する上で、であると言える。

4. 着手発表以降の進捗状況

(1) ○○について

フォント指定

1. タイトル：12 pt の MS ゴシック+Arial. 副題は 11 pt の MS ゴシック+Arial.
2. 研究室・学籍番号・氏名：10 pt の MS 明朝+Times New Roman.
3. 節項タイトル：10 pt の MS ゴシック+Arial.
4. 本文：10 pt の MS 明朝+Times New Roman.
5. 図表：原則、MS 明朝+Times New Roman. フォントは読めるサイズにすること.
6. 本文中の図表番号：10 pt の MS ゴシック+Arial.
7. キャプション図表番号：9 pt の MS ゴシック+Arial.
8. キャプション本文：9 pt の MS 明朝+Times New Roman.
9. 参考文献：9 pt の MS 明朝+Times New Roman.

図 1 ○○の○○との関係

その結果を図 1 に示す。図 1 から、ということがわかり、目的 1 を達成する上で、であると言える。

○. その結果を表 1 に示す。表 1 から、ということがわかり、目的 1 を達成する上で、であると言える。

(2) △△について

キャプションの図表番号は 9 pt の MS ゴシック+Arial, キャプション本文は 9 pt の MS 明朝+Times New Roman

表 1 ○○についての比較表

書式指定

1. 余白：上下左右各 20 mm.
2. 文字数：23 字，字送り 10 pt.
3. 行数：50 行，行送り 14.55 pt.
4. 本文は 2 段組：段の幅 23.03 字，間隔 2.13 字.
5. 本文：行間 1 行.
6. 句読点は「.」「,」で統一.

(目次様式)

目 次		
第一章	序論	1
1-1	研究の背景	2
1-2	研究の目的と意義	2
1-3	研究の方法	2
1-4	本研究における用語の定義	3
	参考文献	5
第二章	調査地の概要	7

第*章	結論	*
謝辞	*
付録		

<改ページ>

(図表目次様式)

図 表 目 次		
図 1-1	文献の引用回数の推移	5
図 1-2	引用文献の出現頻度分布	6
	
	
表 1-1	年度別文献の引用回数	4
表 1-2	年度別引用文献の分野数	6